

第6期長期総合計画基本計画(案)に対するパブリックコメントの実施結果

◎募集期間 令和6年12月3日(火)～12月13日(金)

◎提出意見 9件(住民8件・関係人口1件)

No.	区分	意見内容(原文)	回答
1	住民	◆コンセプト1 活性化 1-5 住民参加型事業の開拓・展開 取り組み例として、場をつくる、の3つが挙げられていますが、新たに施設をつくるということでしょうか。行事をとり行うということでしょうか。具体的な施策が気になりました。 ◆コンセプト3 効率化 1-3 情報発信の改革 町からの情報発信について、ぜひご検討いただきたいです。防災無線で発信いただいている内容は、防災などの重要な情報も多く、可能な限り確認したいと考えています。しかしながら、電波状況が悪く雑音が入ってしまったり、そもそも自宅不在で聞き取りができないこともあり、情報を受け取れないことが多いです。デジタルでの発信も加えることで、聴覚障害の方や日本語の聞き取りが難しい方も含め、多くの住民が町の情報を受け取りやすくなるのではないかと考えます。	⇒今後、ハード・ソフト含め事業を検討していきます。 ⇒今後、デジタル化の推進に合わせ検討していきます。
2	住民	日頃より大変お世話になっております。 また、今後の町政についてこのようにアンケート、パブリックコメントをとってくださることに、こころより感謝申し上げます。 ※印(作成中)が多い段階で意見を言うことも憚られるのですが、気づいたことをいくつか送らせていただきます。 ◎資料提示の仕方について 町民の意見をこのように広く受け付けてくださるにあたり、ぜひ、資料はプリントができる設定にいただき、もしそれができないのであれば、役場で閲覧だけでなく持って帰ってじっくり読めるようにプリントを頼んだら対応していただきたいです。今回はきこりんでも閲覧のみ、家で読もうにも小さな画面で見るとしかなく、資料全体を見渡せないため、意見を言うことも諦めたくなるようなご提示の仕方でした。これですと、平日昼間に長時間役所の閲覧コーナーに座っていただける人しか意見を言うことができません。スマホ用の閲覧機能があったでしょうか？見つけられませんでした。それでもありがたいです。まだ案という段階でプリントできる設定にするのは、役所として心配もあるのだと思います。しかし、このような腹を割った話し合いは、信頼が大きな鍵になります。悪いことが起きることばかりを想定してしまうと、せっかくここまで準備してくださってもパブコメは集まりません。ご検討よろしくお願い致します。 ◎5ページの将来像②について 表題に「作る」と書かれていますが、4ページからの流れからまお、また、私たちが目指す社会のあり方からしてもここは「創る」もしくは「つくる」という字が適当ではないかと思います。 これからやっていかなければならないことは、多様な人間、個性、事情、流行に対して、柔軟な対応だと思います。クリエイティブな動きをイメージしやすいと思います。 ◎5ページ 住民参加型事業の開拓、展開について この書類全体を読み、「こんなにたくさんの方ができるのか？」という不安もよぎります。積極的に町民のアイデア、人材を使って、託して行くことで、実現可能なことも多いかと存じます。この住民参加型事業のあたりになるかと思うのですが、委託していくことも含められないでしょうか。 ◎7ページ 移住定住促進 これまでの施策と何か変化があるでしょうか？移住者を増やすのであれば、ファミリーだけでなく、単身者を呼び込む必要があります。これまで表立って記載されていなかったと思いますが、単身者も住みやすい住居対策が必要かと思います。 また若者住宅というだけでなく、その買取制度など、これまでの施策に足りなかった部分、その先を考える施策が感じられるといいと思います。 ◎8～9ページ こどもたちのこと。障害児のことも入れていただきたいです。障害を持って生まれたお子さんや、発達障害のあるお子さんが、支援機関を求めて引っ越ししてしまうのでは、多様な人々に対応できている社会とはいえません。具体策はいろいろあるので、目標として、障害を受け入れ、共に暮らすことをイメージできる言葉が欲しいと思いました。 ◎12ページ 将来像②フラットなまちづくり の部分で「マニュアルの作成」と書いてあります。誰もが働けるようにするための手段として一理あるのですが、時代は多様な方向に向かっていて、例えば多様な人々が窓口にやってくる状況で合理的配慮が問われる今、求められるのはマニュアル通りに動く人間ではなく、対話力です。前例がない、特別扱いできないというような返答では太刀打ちできない案件がますます増えていきます。できれば、対話による柔軟な対応ができる人材育成という方向が望ましいと思います。 ここから先の具体策で、ぜひ、町民のアイデアを吸い上げてくださいますよう、よろしくお願い致します。	⇒資料提示の方法については、ご意見として今後の参考にさせていただきます。 ⇒5ページの将来像②について、コンセプト1活性化(創造する)に合わせ、「創る」への変更を検討します。 ⇒障害児のことについては、コンセプト1。活性化の将来像②施策の方向性、②-4多様性の尊重の中に含まれていると認識しております。 その他については各事業への具体のアイデア等含めご意見をいただいたものと考えます。個別計画等、具体の事業を検討する際に、ご意見を踏まえ検討させていただきます。

3	住民	基本計画(案)に関する意見として、次の3つをあげます。 (1) 当事者性の尊重 該当箇所【コンセプト1:活性化 将来像②作る・繋がる・広がるまちづくり施策の方向性②-4. 多様性の尊重】 (2) いじめをしない/させないまちづくり 該当箇所【コンセプト2:持続化将来像③セーフティーなまちづくり 施策の方向性、③-2、③-3】 (3) わかりやすさの向上 該当箇所【コンセプト3:効率化 将来像①スマートなまちづくり 施策の方向性①-3. 情報発信の改革】 (1) 当事者性の尊重 該当箇所【コンセプト1:活性化 将来像②作る・繋がる・広がるまちづくり 施策の方向性②-4多様性の尊重】 「基本構想3-1まちの将来像<<将来像に込めた思い>>」に、「本計画は町としてだけではなく、住民皆さん一人ひとりが主役であり、実現に向けて一緒に目指していくものであることから、自分事と捉えやすいよう、「わたしが」という主語にしています。」と記載されています。また、「基本構想3-2私たちが大事にする姿勢」にも「わたし」=「一人ひとり」を大切にします 年齢や性別、国籍などにとらわれず、一人ひとりの個性が光るまち」と記載されています。このような思いや姿勢が言葉として記載されていることはとても良いことだと思います。私は、この基本構想の言葉が意味するところについて、前者(3-1)を当事者性としてまとめました。また、後者(3-2)を多様性と解釈しました。 この基本構想の思い・姿勢・言葉を実行力のあるものとするために、多様性を尊重するとともに当事者性を尊重した取り組みを進めることが重要であると考えます。当事者性の尊重は、端的に、当事者である私たち抜きに私たちのことを決めないということです。 すなわち、子どもに関する施策を進めるにあたっては策定段階から子どもを参画させ、障害者に関する施策を進めるにあたっては策定段階から障害者を参画させる等、施策の対象者となる当事者の意見を尊重し、施策に反映させていくということです。同時に、住民の当事者性を高めていくための取り組みも必要です。 基本構想においては、主語が「わたしが」となっていますが、基本計画の策定・実行においては、「わたしたちが」と歩を進めるような内容となればより良いと考えています。これからの施策が当事者を置き去りにした施策とならないように、当事者との対話を積極的に行えるような基本計画を策定してください。そのためにも、施策の方向性②-4多様性の尊重の表記を、多様性の尊重・当事者性の尊重と併記することを提案します。 (2) いじめをしない/させないまちづくり 【コンセプト2:持続化 将来像③セーフティーなまちづくり 施策の方向性③-2、③-3】 本基本構想、基本計画(案)には「いじめ」に関する記載がありません。奥多摩町には奥多摩町いじめ 防止基本方針がありますが、対象は学校における生徒のみとなっています。いじめは学校に限って存在するものではなく、職場にも地域にも存在しているものであることから、基本計画にも盛り込む方が良いと考えます。 「奥多摩ならではの顔が見えるつながり」があるからこそ、まちとして、いじめをしない/させない取り組みを基本に据えることが重要であると考えます。具体的には、「施策の方向性③-3安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくり」において、いじめは許されない旨、いじめ被害者は将来にわたってつらい思いを抱えて生きる旨を記載し、「施策の方向③-2犯罪・事故から人を守るまちづくり」において、いじめはその内容によっては犯罪になり得る旨を記載し、強い意志で、いじめをしない/させないまちづくりを進めることを表明していただきたいです。 (3) わかりやすさの向上 【コンセプト3:効率化 将来像①スマートなまちづくり 施策の方向性①-3. 情報発信の改革】 上記(1)当事者性の尊重でも述べたことにも関係しますが、当事者の参画による施策の展開を進めるためにも当事者がわかりやすい表記及び発信受信方法を求めます。全体的にはユニバーサルデザインで良いと思いますが、対象となる当事者に合せた配慮があればより良いと思います。例えば、子ども向けの本は、子どもの年齢や発達状況に応じて、文字の大きさや使用する漢字等に配慮がなされています。このような配慮ができるシステムの導入が適当であると思います。本基本計画(案)及びパブリックコメントの募集も、子どもが読んで理解するにはむずかしい内容ですし、それへの配慮もないように思います。子どもがパブリックコメントを出すことは想定しづらいかもしれませんが、その入口が、子どもの入ることを想定して作ってあれば、またちがう結果が得られるかもしれません。 また、情報を正しく伝える観点や交流を育む観点から、情報の発信者と受信者が対話できる関係性を作り、これを維持していくことが重要であると考えます。デジタル化等による負担の軽減やスマート化は必要であると思いますが、デジタル情報による受信ができない方やその方法を選択しない方、または従来の情報伝達手段に日々の交流を見出している方にとっては、今ある郵便や回覧板のやり取りが必要ですし、その際にする立ち話等が重要なものであると思います。したがって、効率が悪いからと言って無駄とは判断せず、住民との対話を通した上で、効率化を進めていただきたいです。 繰り返しになりますが、多様性及び当事者性を尊重し育んでいくという観点からも、情報の内容をわかりやすくし、意見を発信しやすくすることは、これからの10年、その先の10年を考える上で重要であると思います。	⇒(1)についてはご指摘のとおり、主役が住民皆さん一人一人であることを含め、本計画全体を自分事(当事者性)と捉えやすいように「わたしが」という主語を基に構成しています。ただし、町として多様性の尊重については重要と捉えておりますので、施策の方向性②ー4に特出ししています。 ⇒(2)については、いただいたご意見を踏まえ、③ー3安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくりの文中に、「誰一人取り残されず」という表現で追記します。 ⇒(3)については、いただいたご意見を基に分かりやすい情報発信に努めていきます。
---	----	---	---

4	住民	<コンセプト1> 施策の方向性①-3 観光資源の開発 観光スポットの充実に、景観の保全をといれてほしいです。(参考／栃木県那須町の景観条例) 具体的には、彩度の高い色の看板やノボリなどの撤去・交換などです。町全体で国立公園としての魅力を上げていきたいです。 メンテナンスが必要なものも観光資源として、つけ加えていただきたいです。例えば登山道整備など。道を修繕するボランティアツアーは、自治体のバックアップが重要です。参加者はリピーターとなる可能性が高いです。(参考例／山梨県北杜市) 施策の方向性②-1 広域連携の推進 奥多摩町では手が回らない部分を補完してもらえる自治体との連携を、進めることを提案します。 具体的には立川市との連携です。立川駅は、電車利用者にとっては重要な中継地点となっています。多くの登山者が電車を利用して奥多摩を訪れますが、下山後に食事ができる場所が奥多摩駅周辺では限られています。特に、グループで入れる店は少なく、閉店時間も早いため、ゆっくりお酒を飲むなどの余暇を楽しむことが難しいのが現状です。奥多摩町内ではとてもまかないきれいていません。実際に下山後の登山者の25%が、立川市に立ち寄って食事をしているというデータがあります。 連携によって、奥多摩町では立川市の飲食店を紹介し、逆に立川市の飲食店から奥多摩町の生の観光情報を伝えてもらう仕組みを作りだせると考えます。(コンセプト3、③-3にもつながります) 施策の方向性③-2 観光資源の活用 自然のアクティビティは、オーバーツーリズムな場所も見受けられます。環境の保護保全の観点から、事業者の限定や人数の制限の検討が必要だと考えます。 奥多摩町は、電車こそが観光資源だと考えます。圧倒的に電車利用で町に訪れるひとが多いです。駅から徒歩で移動するのを前提に考えた施策をお願いしたいです。 <コンセプト3> ③-3 町の魅力をシェアする 町の魅力を伝えるには、口コミが最も効果的です。そのためには、まず町民自身が町内の魅力を体験することが必要と考えます。 たとえば、町民のための町内マイクロバスツアー。 町内の飲食店やアクティビティ、工房などをめぐるツアーを、町内住民が参加できるしくみを作る。地域の住民が町内のお店や体験ツアーを知ること、生の声を町外のひとに伝えやすくなります。また、新しくお店をはじめた移住者と、古くからの住民との交流も期待できます。(参考例／徳島県神山町) (10年後の観光) 東京都では、過去10年間で在日外国人の数が約1.5倍に増加しています。彼らが自国から訪れた家族や友人とともに訪れる観光地として、奥多摩が選ばれることが増えています。また、1か月程度滞在する外国人旅行者が、帰国前の2～3日の緩衝期間に日帰りで奥多摩を訪れるケースも多く見られます。今後、こうした訪問者の割合はさらに増加すると予想されます。こうした傾向を踏まえ、ブランド形成、情報発信、そして環境整備が求められると考えます。	⇒広域連携の推進については、西多摩地域広域行政圏をはじめ、様々な可能性を模索していきます。 その他については、今後策定を検討する産業振興計画等での参考とさせていただきます。
5	住民	ワークショップをはじめとして、複数回パブリックコメントを実施するなど、住民の声を聴く機会をたくさん設けていただきありがとうございます！！ 今回の基本計画案を拝見し、以下の点についてぜひご検討いただきたくコメントさせていただきます。 【各施策のこと】 A.施策の方向性②ー3. コミュニティの形成・活性化 →「自治会の活性化」という文言がありますが、活性化という方向性及び言葉選びがこれからの時代において妥当性があるものなのか再考いただきたいです。町の第2期総合戦略では2035年の人口設定を約3000人とされています。自治会の存続の可否を検討していくべき段階に入っているのではないのでしょうか。実際、私の所属している自治会でも、活動内容を縮小していくためのアンケートを独自実施しています。個人的には「自治会など地縁型組織のあり方の再検討」「自治会活動の最適化」といった方針を町が打ち出し、旗振り役を担っていただけると、この地域に住み続ける安心感となります。 B.施策の方向性①ー1. 子育て推進 →「学校が終わった後、子どもたちがのびのびと色々なことを学ぶ場として、放課後子ども教室を開催」という文言について、放課後の居場所のあり方が「学びの場」や「放課後子ども教室」と、機能や空間を限定的に記載するような内容に、子どもの意思の不在を感じます。子どもにとっての最善を考えるのであれば、校内だけでなく地域の中も含めて、多様な居場所の選択肢があり、休んだり、遊んだり、学んだり、子ども自身が希望に合わせて放課後の過ごし方を選べるような環境づくりを進めていくことではないでしょうか。また、学ぶことと同等に、意味のある社会参加も子どもの権利として重要視されています。ぜひ、子どもが権利主体として自らの暮らす地域づくりに積極的に意見等ができるような環境づくりとして、ティーンズ会議や子ども会議といった事業も取組例として追加いただきたいです。 C.施策の方向性①ー5. 住民参加型事業の開拓・展開 →「＜取組み例＞＊学びの場をつくる＊遊びの場をつくる＊集いの場をつくる等」とありますが、抽象度が高過ぎて具体的な取組イメージが沸きませんでした…。個人的には、年齢層の高い方々は福祉会館や文化会館等で文化活動やスポーツ活動を頻繁に実施されているように感じます。一方で、移住者を中心とした若年層でローカル活動に積極的に参加している方はごく一部のように感じます。そこで、若者会議など若年層世代でローカル活動を推進していくような事業が、ローカル活動の入口としてあったらよいと思います。 【全体的なこと】 D.10年後の人口はどの程度になると想定して計画を立てたのか、共通理解を得られるページがあるとよいと感じました。 E.施策の方向性ごとの実施主体(役場内での担当)がわからず、住民側から各施策について問い合わせ等が難しい計画だと感じます。それぞれに実施主体を記載いただくと、記載内容や進捗状況等について気軽に尋ねられる住民にとってもありがたい計画書になるだろうと思いました。 F.特に重点的に取り組むことを想定した施策だけでも、ロードマップ(何年度までに検討を進め、何年度に実施をするなど)の記載があれば、役場・住民がみんなで進捗状況を見守ることのできるよりよい計画になると感じます。	⇒Aについては、施策の方向性②ー3. コミュニティの形成・活性化の本文にありますとおり、自治会を存続していくために、運営や運用方法などを改善し、負担軽減を検討しながらも、コミュニティの核となる人とのつながり・交流の部分に重点を置きながら活性化を目指すものと理解しております。 ⇒B・Cについては、具体事業についてのご意見をいただいたものと考えます。今後事業検討の際に参考とさせていただきます。 ⇒Dについては、資料にあるとおり、人口推計についても今後記載していきます。 ⇒E・Fについては、本計画では、分野での整理ではなく、横断的な視点から複数の部署をまたぐ計画としております。問い合わせ・進捗状況等については、今後評価指標や評価プロセスを設定する中で検討していきます。

6	住民	基本構想では、「わたし」たち一人ひとりが取り組んでいくものであると提言されていましたが、基本計画の各施策は、「進めていきます」「検討していきます」など、行政側の視点で書かれています。「一人ひとり」を意識し、全方位的な計画案になっていることから、かえって、全体の方向性がわかりにくくなっている印象を受けました。 また、5つの「大切にする」姿勢が示されましたが、どのような状態が「大切にする／された」状態なのか明確でないため、基本計画を読んでも、どこに向かって計画が立てられているのかがイメージしにくいと感じました。各コンセプトを将来像①②③に分け、それぞれに施策の方向性を設けたことによって、全体として何を目指しているのかがわかりにくくなっているように思いました。 特に、コンセプト1と2に挙げられた施策は、重なる部分が多いと感じましたので、以下、重複する部分を中心に意見を述べたいと思います。 1)「くらしやすさ」について 全方位的な施策となっているため、全体としてどのような方向へ向かっていくのかがわかりにくいと感じました。もちろん、全て実現できればいいのですが、人口減少が進み、予算も人材も減少していきます。限られた予算、人材をどのように確保、配分するのがわかるような現実的な計画が必要ではないでしょうか。 基本構想の「くらしやすさ」や「町内外のつながり」に関係する施策で言えば、将来像①-5「住民参加型事業の開拓・展開」、将来像②-2「幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓」、②-3「コミュニティの形成・活性化」、将来像③-5「暮らしの満足度向上」の一部、コンセプト2の将来像①-3「誰もが学び続けるまちづくり」の施策では重複する取り組みが多いと思いました。それぞれの項目で施策の方向性を設定した結果、全体としてどのような方向性を目指しているのかがわかりにくくなっていると感じました。 現在も、自治会をはじめ、老人会や文化団体連盟、各種スポーツクラブや語学教室、きこりんやヘルシー体操、元氣アップおくたま事業、森林セラピー事業、さらには、郷土芸能継承の場などなど、さまざまな場が形成、提供されています。このような場が「くらしやすさ」や「つながり」として不十分であり、新たな事業が必要なのだとしたら、どのような方向性で計画を進めていけばいいのかという統合的な視点が必要ではないかと思っています。 これらの施策の上位目標が「自然の中でわたしがくらしつながら挑戦できるおくたま」ということであると、明確なビジョンが見えにくく、最終的に、予算や人材が足りないののでできませんでしたということになりかねません。最終的な評価指標も含め、現実に沿った計画が必要ではないかと思っています。 2)観光資源について コンセプト1の将来像①-3「観光資源の開発」と将来像③-2「観光資源の活用」、さらに、コンセプト2の将来像①-1「資源を活かす・大切にするまちづくり」は、施策に挙げられた取組み例に多少の違いはあるものの重複する点も多く、全体として、どのような方向を目指しているのか、はっきり読み取ることができませんでした。 基本構想では、「豊かな自然を大切にする」とありますが、観光資源を例に挙げれば、現在も、封鎖されたままの登山道や危険箇所、放置されたモノレールや廃墟となった空き家などから散乱したゴミなど、貴重な観光資源である自然が十分に整備・活用されていない(大切にされていない)部分も多いと感じています。長期計画では、今あるものは何か、それを今後10年間でどう活かすのか、新たに開発するものは何かなど、全体的な方向性を示していくことが必要だと思います。 3)子どもの教育について 3月と10月に募集されたパブリックコメントでは、子どもの教育に関する意見が多く寄せられていました。移住してきた子育て世代にとって「教育」は大きな関心ごとであると思いますが、今回の基本計画の中で子どもの教育に関係する部分は、コンセプト2の将来像①-2「子どもの成長を見守るまちづくり」にとどまり、子どもの教育に関して消極的な印象を受けました。 基本計画では、体験学習の充実などにより「のびのびとした発想豊かな子どもたちを育みます(p.9)」とあります。これを奥多摩町が目指す子どもの将来像と捉えるなら、「持続化」よりも、コンセプト1「活性化」で、具体的な施策の方向性を打ち出していただきたいです。子どもの教育を充実させることで、コンセプト1の将来像③-3「移住・定住促進」もつながると思います。 また、中学卒業後の教育に関する施策が見当たりませんでした。奥多摩町の子育てを受けた子どもたちに、中学卒業後、どのような「学び」や「挑戦」の場を提供するのか、教育の継続性も考えていくことが必要ではないでしょうか。 4)コンセプト3:効率化 コンセプト3では、「わたし」の主体が「町(行政)」であることが明確だったため、具体的に何をやるのかわかりやすい基本計画でした。効率化のためには、デジタル化が欠かせないと思いますが、施策の方向性①-1では、組織運営、人材配置・育成にも切り込んでいることを高く評価します。限られた人材で効率よく業務を遂行していくためには、組織の改革も必要となると思います。 また、施策の方向性①-3「情報発信の改革」は、ぜひ進めていただきたいです。現行の発信方法では、人的な負担が大きい上に、情報を取得できる人が限定されているからです。今後の改革に期待したいです。	⇒1については、本計画では、分野での整理ではなく、横断的な視点から複数の部署をまたぐ計画としており、内容が重複することも認識のもと計画を策定しております。また、評価については今後評価指標や評価プロセスを検討していきます。 ⇒2については、今後策定を検討する産業振興計画等での参考とさせていただきます。 ⇒3については、個別計画等具体の事業を検討する際に参考にさせていただきます。
---	----	--	--

7	住民	■ コンセプト1:活性化 ----- 1-2. 起業支援 事業計画の相談から資金調達、出店場所の斡旋などを包括的に支援する起業サポートセンターを設置するのはどうでしょうか。施設内に期間限定でお試し出店できるスペースがあれば挑戦へのハードルがぐっと下がると思います。 現行の「まちづくり推進事業」は住人の挑戦を後押しする良い取り組みですが、持続すると支援率が落ちたり、売上で支援額が減るなどの制約があります。これを非営利型(補助率固定)と営利型(補助率が持続で減少、売上は不問)から選べると、使い勝手が向上します。 3-1. まちの活性化 大学、専門学校、高校などの教育施設を誘致することは、日常的に人の流れが生まれ、周辺の商業をはじめ、多方面に良い影響をもたらします。特に子育て世代は特色のある学校への興味は高く、移住の動機にもなるため積極的に取り組んでいただきたいです。 ■ コンセプト2:持続化 ----- 2-1. 交通インフラの整備されたまちづくり 奥多摩に住み、町外の仕事を続けるにあたってJR青梅線の安定した運行は非常に重要です。しかし奥多摩と青梅間が、大雨や暴風等で運休になりやすいのが現状です。JRや青梅市と協力しながら対策してほしいです。 ■ コンセプト3:効率化 ----- 1-1. スマートなまちづくり 現行、町から住民への通知は専ら郵送です。これをメールで配信するなど電子化し、郵送は希望者のみに限定する仕組みを提案します。事務の効率化とコスト削減が期待されます。行政への納付について、Pay-easyやPayPay等の電子決済に対応することで、住民の利便性と行政の効率化に寄与します。 1-3. 情報発信の改革 防災無線による日々のお知らせや緊急の情報を、ラインやメールなどの文章形式でも配信する仕組みを整備してください。音声情報だけでは、聞き逃しや、雑音で聞き取りが難しい場合があるためです。聴覚障害のある方が情報を得られない場合も考えられます。情報端末を持っていない住民には端末の貸出も行います。 回覧板にはコミュニティ形成や安否確認、防犯等、情報伝達以外の副次的な役割があるため「回覧板等のデジタル化」は慎重に検討するのが良いと思います。 3-4. 住民の意見をシェアする 「住民同士が情報交換・交流できるツール」とありますが、ツールはSlackやDiscord等を導入するにしても重要なのはその運用方法です。経験豊かな管理人がいないと継続的な運営は難しいと予想するので、専門人材の確保が必要です。その人材を「地域おこし協力隊」の制度を利用して採用するのはどうでしょうか。	⇒教育施設の誘致については、近隣市でも教育機関が撤退する中、町に教育施設を誘致することは困難であると考えます。 その他については、個別計画等具体の事業を検討する際に参考にさせていただきます。
8	住民	コンセプト2持続化 サステナブルなまちづくり 施策の方向性①ー2 〈取り組み例〉家庭、地域と学校との連携協同 学びを支える学校環境の整備 について 小学校では、PTAの学年行事などとして、外部の講師を招いた活動(例:星空観察)が行われています。これらは、児童にとって貴重な機会となる一方、教職員の方々には大きな負担となっていることを、その場の先生方と直接お話する中で確認しました。 このような、いわゆる勉強以外の学びを、学校現場だけに任せるのではなく、町としてもマンパワーや予算の面で支援していったほしいです。まずは、小、中学校でどのような時間外の活動が行われているのか(部活動関係も含め)、把握することが必要だと思います。 レジリエンスなまちづくり 施策の方向性②ー1 〈取り組み例〉町道、林道の維持補修 町内には古いブロック塀が多数存在します。特に児童生徒が通学に使う道沿いにも、このような塀が見受けられます。他の自治体では、撤去に補助が出る場合もあると聞きます。それに対し、奥多摩町は学区が広く車での送迎も一般的なため、明確な通学路が定まっていないせいもあるのか、ブロック塀に対する危機感が薄いと感じます。しかし、通学路に限定しなくても、児童や町民がブロック塀の倒壊に巻き込まれる危険性は変わりません。特に、大きな地震は必ず来ると言われている昨今です。古いブロック塀について、通学路を中心に、もう少し積極的な取り組みを行ってほしいです。 将来像③ 賑わう満ちる巡るまちづくり 施策の方向性③ー3〈取り組み例〉移住定住対策の促進 町が所有し販売する土地や住宅の取引を、わかりやすくしてほしいです。実際に町有地を購入する過程で、土地の境界線が曖昧だったり、擁壁の所有者が書面に明記されていなかったりと、買い手が大変不安になる状況が発生しました。解決策としては、プロの不動産関係者に取引を委託してはどうでしょうか。町の職員の方も、もちろん不動産取引の専門家ではないでしょうし、買う側も殆どの場合素人です。無用なトラブルを避けるためには、専門の方が中心となって取引を行うほうがよいのではないかと考えます。 我々家族が、移住先として様々な自治体を見て回った中では、例えば、飯能市がそのようなやり方をしていました。市は、不動産業者と移住希望者をマッチングする役割だけを果たしていました。 また、市役所に初めて電話したときにも、子供の小学校などの詳細な質問に対しても、大変親切な対応をしてくれたり、現地を訪問した際には職員の方が車で数力所を案内してくれたり、移住希望者が知りたい情報や実働できる職員数が十分に確保されていると感じました。奥多摩町でも、移住希望のニーズを受け止め切れるような組織づくり、予算配分、人員確保に取り組んでほしいです。	⇒ご意見として受け止め、今後の参考とさせていただきます。

9	関係人口など 地域と多様に関 わりのある方 関わり：ボラン ティア活動、 登山アウトドア 等	将来像③賑わう、満ちる、巡る、町作りについて。 昨年もご意見をしましたが、今年も改善をされている気配がありません。 ①民間の新規店舗の開店は本年2024年多くありましたが、閉業する店舗もあり、活性しているとは思えません。 またこれらは全て民間に丸投げで、そこからの地域公共団体でのブラッシュアップ等、商店街活性化のイベントや、SNS等広報が全く機能していません。 隣接する自治体にすでに遅れを取っています。 外国人観光客や、キャッシュレス時代に突入し、銀行では小銭を両替するのも手間になっており、小菅村では観光地のキャッシュレスが自治体の補助金等で進み、ほぼ観光地ではカード、QR決済等が出来ます。 また、秩父市では若手メインで広報発信しており、YOUTUBE番組、SNSを使ったキャンペーン、西武鉄道とのコラボイベントなどで集客をしており、丹波山では狩猟体験、舞茸クラウドファウンドといった、自然を最大限に利用したイベントを行っています。 これらを総合するに、奥多摩町という自治体が観光に対して本当に力をいれようとしているのか疑問になります。 地方公共団体として、各種JRや西東京バス等公共移動企業とのコラボを行い、町外からの集客への全面的な支援が必要です。 既にやられていると思いますが、さらなる東京都や各種所省庁との交渉を奥多摩町には求めます。 ③－4 公共移動機関の充実について 今年も西東京バスの減便、JRのホリデー快速の冬季運行中止と徐々に公共機関も人手不足に伴い、事業の縮小と今後も続いていくと思われます。 丹波山では村民タクシーがありますが、奥多摩町も東京都、国交省ときっちり検討し、早急に移動手段の確立に力を入れないといけないと思われます。 駐車場の確保も必要ですが、やはり車で来町する人より、電車での来町が多いと思われ民間へ規制緩和が必要です。 LUUPの導入促進や、レンタル自転車の増、等 ③－2 観光資源の活用について 記載があるように奥多摩町は自然豊かで各種アクティビティも盛んにありますが、それも全て民間に丸投げ状態で、自治体でのバックアップがほとんどなされていない様に見えます。 一部ふるさと納税の返礼で各種アクティビティへの参加チケット等を配布していますが、それを知っている方々が少ないです。 それは単に自治体の広報の問題と思われます。上記でも記載しましたが、広報自体がバラバラでSNSもほとんど見られていない状況。 補助金で外部へ委託されているようですが、きちんと活用結果等を精査しているのでしょうか。 また町長の施政でも森林セラピー等の活用と言っておりますが、毎回申込が多く、満員状態でチャンスロスにつながっていませんか。 予算を見ると、多額の登録料等を支払っている様に見受けられますが、きちんと活用出来て回収出来ているのでしょうか？ 多くの自然資源があるのに、上手く活用されていない様に見えます。 観光周知イベントを定期的に行い、それへ町民の人々と一緒に、町外者達がボランティアで活動出来る窓口の早急な対応が必要と思われます。 また、治助いも、鹿肉ジビエ、といった資源もそれらを体験・食する場所も良く分かりません。 毎回奥多摩町では記載していますが、いっこうに進んでいる気配がありません。あまりにも囲い込みの規制があり流通もしていない状況と思われます。 氷川溪谷も今年の大雨で河原自体が変形をしてしまい、BBQが出来るスペースが無くなり、来年はさらに厳しい状況になり、来町者も減ると思われます。 今年は奥多摩の全獅子舞が集まるイベントが盛況だったと思います。 来年度も是非とも実施し、伝統と自然と体験をコラボした企画(例：自然ガイド、歴史ガイドツアーを行い、獅子舞の体験や狩猟体験等で関係人口のUP)等を観光客が少なくなる時期12～3月頃の間に自治体が主体となって行い、ボランティア活動の一環を促進出来る体制をお願い致します。 (もっとラフに自治体窓口を利用出来るように) 最後になりましたが、産業が活性化しないと、移住、定住者は増えません。公共移動機関も増やせません。このままで行くと、取り残された自治体となり、悪循環になります。 他を排除し囲い込みをし、一つの所に集中すると、広がりを見せずに必ずシュリンクをしてしまいます。素晴らしい観光資源も全て台無しになります。 奥多摩の素晴らしい自然を大事にして、皆で分かち合いながら、奥多摩町が発展していく事を切に希望しております。	⇒今後策定を検討する産業振興計画等での参考とさせていただきます。
---	--	--	----------------------------------